社会科学習指導案

三次市立布野小学校
教諭　　掛田　直美

1　日　時　　平成 27 年 11 月 12 日（木）第４校時
2　学　年　　第５学年　10 名（男子４名，女子６名）
3　単元構成　「わたしたちの生活と環境」（全 18 時間）
　　小単元　「わたしたちの生活と森林」
　　小単元　「環境を守るわたしたち」
　　小単元　「自然災害を防ぐ」（本単元）
4　本単元「わたしたちの生活と環境」について
（１）単元観

> 小学校学習指導要領　内容（１）
> 「我が国の国土の自然などの様子について，次のことを地図や地球儀，資料などを活用して調べ，国土の環境が人々の生活や産業と密接な関連をもっていることを考えるようにする。」
> エ　国土の保全などのための森林資源の働き及び自然災害の防止

本単元では，自然災害の防止と国民生活とのかかわりを取り上げる。我が国は世界的に見ても自然災害の多発地域である。豊かな自然環境がもたらす恩恵に多くの産業が支えられる一方，地震や津波，風水害，土砂災害，雪害，火山災害などの様々な種類の自然災害が多発する。我が国の自然災害や防災対策の現状について調べることにより，自然災害による被害を防止するために国や地方公共団体がさまざまな対策や事業を進めていることを捉えさせる。また，日ごろから防災意識を高めることの大切さに気付かせるとともに，自らも自然災害の被害を防ぐためにどのようなことを考え，どのように行動すべきなのかを考えさせることができる単元である。

本校のある三次市布野町でも，市の防災基本計画に基づき，災害時備蓄品の確保や，地域ごとのハザードマップの作成などの防災対策を行っている。また，布野町まちづくり連合会（自治組織）では，防犯防災チームを作り，防災のための取組を行っている。児童が自分たちが住む地域の防災対策について，関係機関に従事する人に聞き取りをしたり，地域にある防災に関わる施設や設備について調査したりすることを通して，公助や共助の大切さについて考えたり，いつ起こるかもしれない災害に対し自分の身は自分で守るという自助の意識を高めたりすることもできる単元である。

（２）児童観

本学級児童の社会科学習に関するアンケート（７月実施）は，以下のような結果だった。

アンケート内容	肯定的な回答
社会科の学習では，比べてちがうところ，にているところを見つけ，そこから分かることを考えている。	80％
調べたことをいくつかつないで，そこから分かることを考えている。	80％
「つまり，～だ。」などと調べたことなどをまとめて考えている。	80％
社会科の時間に自分の考えを考え方モデルを使ってノートに書いたり，話したりしている。	80％
友だちの意見と自分の意見を比べたり，かかわらせたり，まとめたりしてつなげながら話している。	90％
自分の考えを話し，友だちの考えを聞くことで，さらに考えを深めている。	90％

アンケートによると，80％の児童が，比較・関連・総合の考え方モデルを使って考え，表現していると感じている。これは，これまでの学習の積み重ねによる成果だと考えられる。また，自分の考えと友だちの考えを関連させて表現できるようになっていると感じたり，話し合い活動を通して考えが深まったと感じたりしている児童は90％である。児童のノートにも，友だちの考えと自分の考えを比べて表現しているものや，友だちの意見から考えが深まったことが表現されているものが見られるようになっている。ただ，実際の授業の中では，考え方モデルを使って考えながらも，その考えがねらいにせまるものになっていなかったり，友だちの意見にかかわらせて考えを深める話し合いをすることが十分にできていなかったりという課題が見られる。

「自然災害」に関するアンケートによると，テレビニュースなどから得た情報により，我が国では地震や風水害などの自然災害が多発していることは全ての児童が認識している。しかし，これまで自然災害を経験し，恐怖を感じたことのある児童や，国や地方公共団体がどのような防災対策を行っているかを知っていると答えた児童も一人しかおらず，自然災害に対する関心や知識は高いとは言えない。

（３）指導観

指導にあたっては，次の点に留意して行う。

まず，これまでの我が国の自然災害の様子について具体的な資料を調べることを通して，自然災害が多発する背景には我が国の国土を構成する地形的条件や国土を取り巻く気候的条件があり，そうした条件の下で私たちは生活を営んでいることを十分に捉えさせ，国土の環境と自分たちの生活が密接に関わっていることに気付かせ，自然災害への関心を高めて単元を貫く学習問題を設定するようにしたい。

次に，自然災害から私たちを守るための国や地方公共団体の防災対策について調べる学習を行う。自分たちが住む地域の防災対策について，三次市役所布野支所の担当者に聞き取り調査を行ったり，防災に関する施設・設備を見学したりして，地域に直結した公助について学習する。その後，公助に頼るだけでは限界があることを捉えさせ，防災対策について，自分たちができることを考えさせるようにしたい。

思考力，判断力，表現力の育成に向けては，以下の２点を大切にしながら指導していきたい。１点目は，考え方モデルを使いながら，根拠をもとにしたり，体験や既習の知識をもとにしたりして考えたことを表現させていくことである。特に，発言やノートの中での表現を評価するとともに，全体に良いモデルを示すことで，個の力を伸ばしていきたい。２点目は，全体での話し合いだけでなく，ペアトークやグループトークを取り入れ，自分の意見を友だちの意見と比べたり関わらせたりした後，再び自分の考えをノートに書かせ発表させることである。 少人数にすることで，伝え合うことをより意識させ，考えを深めさせたい。

5　布野中学校区オリジナルカリキュラムとの関連

			小学校						中学校		
			初期		前期		中期			後期		
			1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	1年生	2年生	3年生	
思考	めざす姿	課題の発見や解決場面で，思考の技術を使って自分の考えを整理することができる。	○何を考えたらよいか分かる。		○既習事項と関連づけたり，共通点や相違点に気付くことができる。		○一つの考えを一般化したり，既習事項を活用したりして，新しい考えかたを作り出したりすることができる。			○いろいろな視点から多面的に考えることができる。		課題の発見や解決場面で，思考の技術を使って自分の考えを整理することができる。
	取組	思考の技術（視点，比較，関連付け）の定着と活用	○発問の精選をする。		○友だちの考えをしっかり聞かせ，違いや良さに気付かせる。		○活用することの良さを感じさせる授業づくりを行う。			○一つの事象に関わって複数の視点を提示する。 ○複数の事象に関わって同じ視点を提示する。		思考の技術（視点，比較，関連付け）の定着と活用
表現	めざす姿	場面や相手により，表現技術を使い分けて，自分の考えを分かりやすく伝えることができる。	○声の大きさを意識し，ルールに従って自分の考えを発表できる。		○自分の考えに理由を付けることができる。		○友だちの発言との関連を意識しながら，結論と理由を分かりやすく表現できる。			○自分や友だちの考えをまとめ，分かりやすく表現することができる。		場面や相手により，表現技術を使い分けて，自分の考えを分かりやすく伝えることができる。
	取組	表現技術（相手意識，理由，構成，まとめ）の定着と活用	○「声のものさし」を指導する。 ○発言者に視線を向けさせる。		○理由を最後まで言い切らせる。 ○同じような考えでも自分の表現で発表させる。		○前の人の発表に対し，同じ意見か反対意見か等を区別させる。 ○結論と理由を意識して発表させる。			○自分や相手の考えのポイントを整理する場を設定する。 ○前の人の意見との関係性（同じ，反対・異なる等）を意識させる。		表現技術（相手意識，理由，構成，まとめ）の定着と活用
ノートづくり	めざす姿	ノート等の作り方を工夫し，授業や家庭学習など，自分の学習活動に活用することができる。	○文字を丁寧に書く。 ○自分の考えを書く。		○根拠をもとに自分の考えを書く。		○友だちの考えや既習事項をもとに深まった自分の考えを書く。			○自分や友だちの考えや学習内容をまとめることができる。 ○目的に応じたノート活用ができる。		ノート等の作り方を工夫し，授業や家庭学習など，自分の学習活動に活用することができる。
	取組	ノート作りと活用する力の向上	ノートの書き方の指導・ノート整理の時間の確保・ 机間指導での個別指導・板書の工夫・家庭学習のチェック（評価）									ノート作りと活用する力の向上

○思考　　自然災害による被害の防止を自分たちの生活や自分自身と関連付けて考える。

○表現　　自然災害による被害を防止するためには，国，都道府県などの取組や，地域住民の協力，国民一人一人の防災意識の向上が重要であることを既習事項や資料をもとに表現する。

○ノートづくり　　予想と振り返りを書く活動を通して自分の考えの深まりを捉える。

6　本単元の目標

○　我が国の自然災害やその防止の取組などに関心をもって意欲的に調べ，我が国は自然災害が起こりやすく，国や地方公共団体などが様々な対策を進めていることを理解し，国民一人一人が協力したり防災意識を高めたりすることが大切であることに気付くとともに，防災のための自分たちの取組について考えようとする。

○　自然災害による被害を防止するためには，国民一人一人の協力や防災意識の向上が必要であることに気付き，自然災害の防止と自分自身とのかかわりについて思考・判断したことを適切に表現する。

7　本単元の評価規準

ア社会的事象への関心・意欲・態度	イ社会的な思考・判断・表現	ウ観察・資料活用の技能	エ社会的事象についての知識・理解
①我が国の自然災害やそれによる被害の防止の取組などに関心をもち，意欲的に調べている。 ②自然災害による被害の防止のために国民一人一人や自分自身ができることを考えようとしている。	①我が国の自然災害やそれによる被害の防止の取組の様子について学習問題や予想，学習計画を考え表現している。 ②自然災害による被害の防止を国民生活や自分自身と関連付けて思考・判断し，国，都道府県などの取組や，地域住民の協力，国民一人一人の防災意識の向上が重要であることを表現している。 ③自然災害による被害の防止を自分自身と関連付けて思考・判断し，自分にできることを考え表現している。	①我が国の自然災害の様子について，各種資料を活用したり調査したりして必要な情報を集め，我が国は自然災害が起こりやすいことを読み取っている。 ②自然災害による被害防止のための国や地方公共団体などの取組について聞き取りや見学などをして情報を集め，国民のために様々な対策や事業を進めていることをまとめている。	①我が国は自然災害が起こりやすい地域であることを理解している。 ②国や地方公共団体などは，自然災害による被害を防止するための対策や事業を進めていることを理解している。 ③自然災害による被害を防止するためには，国民一人一人の協力や防災意識の向上が必要であることを理解している。

8　本単元の指導計画（全８時間　本時６／８）

次（時数）	主な内容と学習活動［知識の構造図との関連］	関意態	思判表	技観	知理	評価規準	評価方法
つかむ 一（2）	我が国の自然災害の様子について調べ，分かったことを話し合う。［①］	○				我が国の自然災害やそれによる被害の防止の取組などに関心をもち，意欲的に調べている。（ア―①） 我が国は自然災害が起こりやすい地域であることを理解している。（エ―①）	発言 ノート

	学習問題を設定し，それに対する予想を立て，学習の見通しを持つ。[①]		○			我が国の自然災害やそれによる被害の防止の取組の様子について学習問題や予想，学習計画を考え表現している。（イ―①）	発言 ノート
	自然災害による被害を防ぐためにどのような取組が行われ，私たちはそのためにどのようなことをしていけばよいのだろう。						
調べる・考える 二（5）	国や地方公共団体ではどのような防災対策が行われているかを調べ，分かったことを話し合う。[②]			○	◎	我が国の自然災害の様子について，各種資料を活用したり調査したりして必要な情報を集め，我が国は自然災害が起こりやすいことを読み取っている。（ウ―①） 我が国は自然災害が起こりやすく，国や地方公共団体などは自然災害による被害を防止するための対策や事業を進めていることを理解している。（エ―②）	発言 ノート
	三次市布野町の防災対策について調べる。[③]（２時間）			○		自然災害による被害防止のための国や地方公共団体などの取組について聞き取りや見学などをして情報を集め，国民のために様々な対策や事業を進めていることをまとめている。（ウ―②）	発言 ノート
	自然災害から命を守るためには，自分の命は自分で守る努力をすることや地域の人同士の協力が必要なことについて考える。[④] 【本時】		○			自然災害による被害の防止を国民生活や自分自身と関連付けて思考・判断し，地域住民の協力や国民一人一人の防災意識の向上が重要であることを表現している。（イ―②）	発言 ノート
	事例をもとに自然災害から命を守るために大切なことを考える。[④]	○	◎			自然災害による被害の防止のために国民一人一人や自分自身ができることを考えようとしている。（ア―②） 自然災害による被害の防止を自分自身と関連付けて思考・判断し，自分にできることを考え表現している。（イ―③）	発言 ノート
まとめる 三（1）	これまでの学習をまとめ，自分のオリジナルハザードマップを作る。[④]				○	自然災害による被害を防止するためには，国民一人一人の協力や防災意識の向上が必要であることを理解している。（エ―③）	発言 成果物
	国は，自然災害による災害を防止するために砂防ダムや放水路，堤防などの施設を設置したり，ハザードマップを作成したりしている。また，自然災害から命を守るためには，国や町の対策（公助）に頼るだけではなく，みんなで協力し（共助），自分の命は自分で守るという意識（自助）が大切である。						

9　本時の学習

（1）本時の目標

自然災害から命を守るためには，公助に頼るだけでなく，自分の命は自分で守るという意識（自助）や地域の人同士の協力（共助）が必要なことについて考える。

（2）本時の評価規準

自然災害による被害の防止を国民生活や自分自身と関連付けて思考・判断し，地域住民の協力や国民一人一人の防災意識の向上が重要であることを表現している。　（社会的な思考・判断・表現）

（3）準備物

ゲリラ豪雨頻発化グラフ（資料①）　市町村の土砂災害危険箇所（資料②）三次市の作った布野町のハザードマップ（資料③）　布野町の地域で作成されたハザードマップ（資料④）　ハザードマップ作りに携わった人のお話ビデオ（資料⑤）　県民だより（資料⑥）

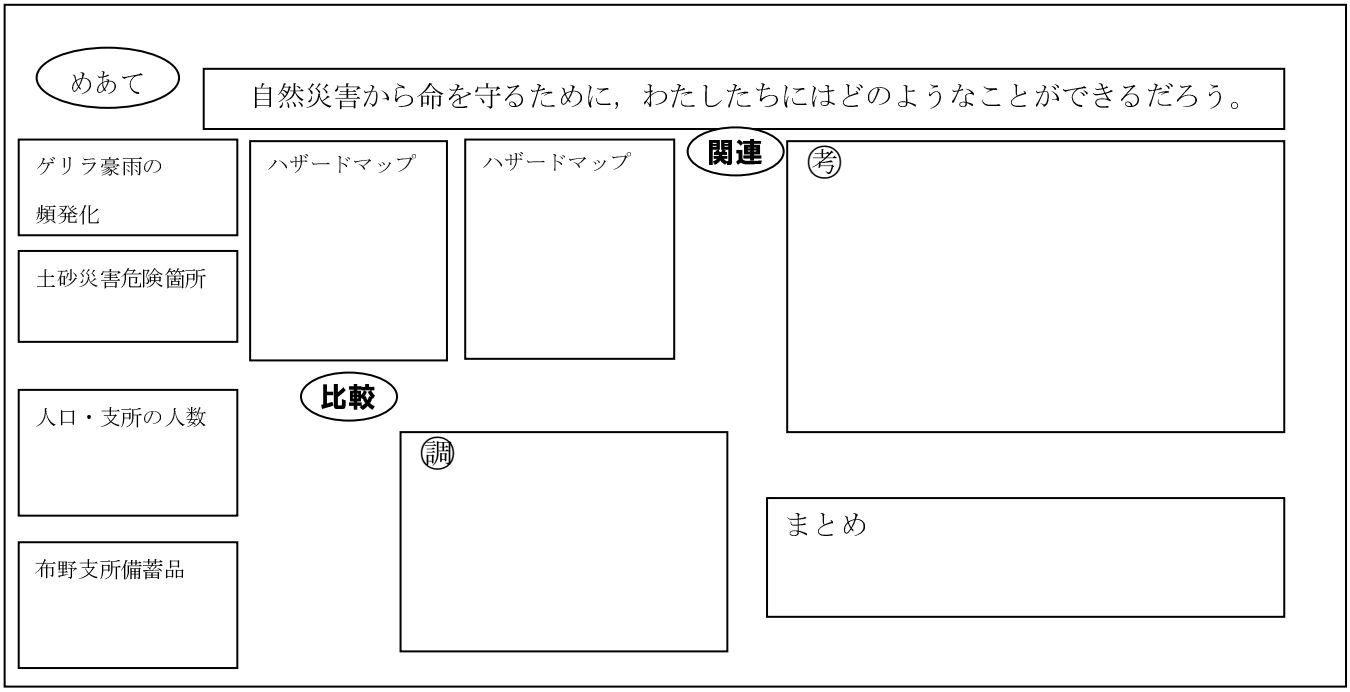
（4）学習の展開

過程	学習活動 ○発問 ・予想される児童の反応	指導上の留意点 ◆「努力を要する」状況と判断した児童への指導の手立て	思考の方法と考えさせたい内容	評価規準 (評価方法)
つかむ	1　市町村別の土砂災害危険個所の状況や近年のゲリラ豪雨の頻発化から，布野町も今後土砂災害の危険があることを知る。	資料①豪雨グラフ 資料②布野町の土砂災害危険個所		
	2　公助には限界があることを捉えて，学習課題につなげる。 ○公助があれば，自然災害から私たちの命を守ることができるのだろうか。	○前時までの学習や掲示物（布野町の災害備蓄品の数や，支所の職員数，布野町の人口など）から考えさせる。		
	2　学習課題を確認する。 自然災害から命を守るために，わたしたちはどのようなことができるのだろう。			
	3　学習課題に対する予想をする。 ・危険な場所を知る。 ・避難場所を知る。 ・どの道順で避難したらよいか考える。 ・避難するときに持っていくものを準備しておく。	○何のためにそれが必要なのか切り返し発問をすることで，自助の視点で主に考えていることを確認し，調べ学習につなげる。		
調べる・考える	4　三次市の作ったハザードマップと布野町の地域の人が作ったハザードマップを比べて違いを見つける。 ○三次市の作ったものと布野町の人が作ったものとは，どのようなところが違うだろう。 ・布野町のものは危険なことについてくわしく書いてある。 →地域のことは地域の人がよく知っているから。 ・記号だけでなく危険なところについては言葉で書いてある。 ・地図で大きく表してある。 →家と危険場所の関係がよく分かる。 →自分の家から避難場所までどの道を通って避難すればよい	資料③三次市の作ったハザードマップ 資料④布野町の人の作ったハザードマップ ○２つのハザードマップの違いに視点をあてさせることで，布野町の人の作ったハザードマップの工夫を捉えさせる。	比較 ハザードマップを比べることで布野町の人の作ったハザードマップのよさを捉えさせる。	

	のか具体的に考えることができる。 ・「ひなんする時のれんらく・声かけ等」という枠がある。 →「いっしょに声かけひなん」のところに声をかける人の名前を書くのではないか。 5　このようなハザードマップを作った理由を考える **○布野町の人は，なぜ自分たちの住む地域のハザードマップを自分たちで作ったのでしょう。**	○枠の中に書くことや，避難するときに声かけをする必要のある人とはどのような人なのかを考えさせることで，困る人をみんなで助け合うための工夫であることに気付かせる。	**関連** 布野町のハザードマップ独自の表記と共助とをつなげて考えさせる。	
	根拠を示しながら表現する。 考え方モデル（比較）を使った児童の反応 C：三次市の作ったものより地図が大きいので危険な場所や避難場所が具体的に分かる。 C：三次市の地図よりも地図が詳しいので避難所までの道順を考えることができる。 C：一人暮らしのお年寄りを確認して声を誰がかけるのかを書くところがある。 考え方モデル（関連）を使った児童の反応 C：地域のことを一番よく知っている自分たちが作ることで，危険な場所や避難場所への道順がよく分かり，自分の命を守ることにつながるから。 C：一人暮らしのお年寄りもいる。その人たちのように一人では避難が難しい人の命も協力して助けるために誰がいて誰が声をかけるのかを書くところが作られている。 C：地域の人が集まってハザードマップ作りをすることで，つながりが生まれたり，地域の事を知ったりできるから。			
		資料⑤地域のハザードマップ作りに携わった人のお話（映像） ○ハザードマップ作りに携わった人の思いを聞き，自分たちの考えを確かめる。		
まとめる	6　まとめをする。 自然災害から命を守るためには，ハザードマップなどをもとに自分で自分の命を守るためにいろいろなことを知ったり，準備したりする（自助）とともに，お年寄りと一緒に避難したりするなど，地域のみんなで助け合うこと（共助）が大切である。 まとめとして期待したい児童の反応 C：自然災害から命を守るためには，危険なところや避難場所を知ったり，避難する道順を考えたりすることや，地域の人が協力し合い，助け合うことが大切である。	○防災のために自分の命は自分で守ることを「自助」，地域住民が協力することを「共助」ということを知らせる。		自然災害による被害の防止を国民生活や自分自身と関連付けて思考・判断し，地域住民の協力や国民一人一人の防災意識の向上が重要であることを表現している。（発言・ノート）

	まとめとして期待したい児童の反応 C：自然災害から命を守るためには，ハザードマップを利用して避難場所を知ったり，気象情報などの情報に関心をもったりして，自分の命を守ることをするだけでなく，近くのお年寄りの人に声をかけて避難するなど地域で助け合うことをしていく。			
	7　振り返りをする。	○予想に照らし合わせたり，友だちとの意見交流などを振り返ったりしながら，学習による思考の深まりをノートに書かせる。		

（5）板書計画



10　知識の構造図

知識の構造図

概念的知識

自然災害が起こりやすい我が国においては，日ごろから防災に関する情報などに関心をもつなど，国民一人一人が防災意識を高めることが大切である。

考えて身に付ける知識

我が国の国土では地震や津波，風水害，土砂災害，雪害などの様々な自然災害が起こりやすく，その被害を防止するために国や地方自治体などが様々な対策や事業を進めている。

自然災害の防止のためには，国や地方自治体の対策だけでなく，国民一人一人の協力や防災意識の向上が必要である。

調べて身に付ける知識

① 我が国では、地震や風水害、土砂災害、雪害、火山災害などの様々な自然災害が多発している。

② 自然災害の被害を防止するために、国や地方自治体は、様々な対策や事業を進めている。

③ 三次市布野町では、災害時備蓄品の確保、自主防災組織の結成、ハザードマップの作成などの取組が行われている。

④ 自然災害の被害を防止するには、布野町の対策に頼るだけでなく、地域の人たちが協力したり、自分で自分の命を守る方法を考えたりすることが大切である。

おさえたい用語・語句

① 国土　自然災害　地震　風水害　土砂災害　雪害　火山災害

② 防災対策　砂防ダム　堤防　ハザードマップ　避難施設　公助

③ 支所　災害時備蓄品　自主防災組織

④ 防災意識　共助　自助